

第24期 国立市社会教育委員の会（第15回定例会）会議要旨

令和4年7月26日（火）

[参加者] 日野、砂押、矢野、栗畑、中野、笹生、倉持、生島

[事務局] 井田、土方、高橋

生島議長 時間になりましたので、これから第24期国立市社会教育委員の会第15回の定例会を開会したいと思います。よろしく願いいたします。

本日は、朝比奈委員と石居委員から欠席の御連絡をいただいているというのですが、定員に達しておりますので、会議を進めていきたいと思っております。

それでは、まず本日の配付資料につきまして、事務局からお願いいたします。

事務局 事務局でございます。本日もよろしく願いいたします。

まず、次第が載っているほうの山を御覧ください。一番上が次第でございます。その下に、本日の資料1から資料4まで、A4判の1枚物がございます。

もう1つの山を御覧ください。一番上が第14回定例会の議事録となっております。内容について修正等ございませでしたら、市のホームページに掲載したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それから、その下に公民館だより、図書室月報をつけてございます。次第には図書館のいんふおめーしょんを載せてございますが、こちらは先月に2か月分配付しておりますので、今月はございません。

配付資料は以上でございます。不足等あれば挙手でお知らせいただければと思います。

生島議長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

では、次第2のヒアリング結果のまとめ方に入っていきたいと思っております。

この間、この会では、社会教育施設における横断・連携の好事例や課題を確認していくために、芸小ホール、郷土文化館、市民総合体育館、図書館、公民館の5施設の方々においでいただきまして、担当者ヒアリングを実施してきました。非常に中身の濃いヒアリングになりましたし、普段の活動というだけではなく、横断・連携という切り口をつくったことによって、今までだっとなかなか見えなかった部分というのも見えてきたのではないかなと思っております。

一方で、共通する課題ですとか悩みもあるということも、少しずつ見えてきたのではないかなと思っております。

ヒアリングの内容を受けまして、本日は、この会として取りまとめをどのようにしていくかということについて、議論を進めていきたいと思っております。

資料1を見ていただくと、スケジュールが載っています。もう3分の2ぐらいが終わっているところで、7月26日、今日がまとめなんですけれども、残り10回となっております。この10回を使って、これまでヒアリングしてきたことをまとめていく作業を進めていきたいと思っております。

今日は、報告書としてまとめていくに当たって、どのようなことを盛り込んでいくのか、そしてまた、それを議論していく上でのスケジュール感という手応えをつくりながら、深めていくことにつなげていきたいと思っております。

このことは、いずれこういうふうにやっていきますよというふうな予告はしておりまして、ある程度、原案も必要だろうと思っておりますので、資料2で、私のほうで構成案というのを作ってみました。今日はこちらを御紹介しながら、加筆、修正するというか、まずは構成ですよね。そこら辺を作っていくって、見

通しをつくりたいと思っているところです。

ちょっと資料2を御覧いただきたいと思います。提案書という形でまとめられればと思っているわけですが、ヒアリングの報告を踏まえて議論をして、その意見をまとめていくという形になるかと思います。

タイトルは、まだここでは確定していなかったんですけども、その辺も含めて提案をとというふうに思っておりました。

それから、これは誰に宛てるかという話なんですけれども、確認しましたところ、教育委員会、教育長に宛ててというふうになるということです。つまり、ここで意見を述べるというのは、施設にヒアリングをしてきたけれども、施設にそのまま戻すというよりは、こういう施設とか、または施設を通じて生涯学習の環境を提供している教育委員会側に対して、もっとこうすればいいんじゃないかとか、こんな課題が私たちの視点からは見えたよということと言うというふうに捉えていただければいいのかなと思っています。

そういう意味で、ちょっと原案を作ってみましたので、先にこれを御紹介して、その後、皆さん方からいろいろ、忌憚なく御意見いただいて、枠組みを固めていきたいと思っています。

まずは、タイトルなんですけれども、横断・連携、これまでずっと一つのフレーズにしてきましたけれども、仮案として、「横断・連携」を通じた生涯学習振興について（意見）」というふうにしてみました。

それから、「はじめに」、ちょっと読んでいきたいと思っています。

国立市生涯学習振興・推進計画では、「国立市の生涯学習をめぐる課題」のうち、(2) 学習機会の充実として、行政だけでは提供し得る学習機会に限りがあるため、市内にある様々な市民団体、大学等の教育機関、研究機関などと連携・協働することで充実化させることが期待されている。また、第5期基本構想、国立市の基本構想ですね、9つある政策の3つ目には、「文化・生涯学習・スポーツ」とありますけれども、図書館や公民館、郷土文化館、市民芸術小ホールなど、それぞれ機能を異にする社会教育関係の施設・部署の連携を進め、運営の質向上を図ることで、既存の生涯学習施設をより一層、効果的・効率的に活用する方向性が示されている。

こうしたことを受けて、市民のより豊かな生涯学習機会の展開に向け、こうした「横断・連携」を進めていくためには、どのような視点や捉え方が必要なのだろうか。第24期国立市社会教育委員の会では、特に市民の具体的な学習活動の場となっている生涯学習関連施設を対象とし、それぞれの施設で行われている「横断・連携」の実態把握や事例を把握するため、施設担当者を対象にインタビューを行った。その結果を踏まえ、「横断・連携」を展開するための課題を整理し、提案を行う。

ということで、この辺が、聞いてきて、合意形成されてきたことかなと思いますけれども、まとめてみました。

この後、これから深めていくところかなと思うんですけど、まず、1として掲げているところは、それぞれの施設での横断・連携の特徴とか、または具体例かなと思っています。この辺りは、これまでまとめてきているものを概略として載せていければいいかなと思っていますところなんです。

で、少しパターンとしてというか、例としてなんですけれども。(1)、(2)、(3)は、もう既にまとめを軽くやってもらってありましたので、これを基にしていくんですけども、(4)、(5)はまだです、(5)は私と日野委員で担当させていただいたんですけど、国立市公民館のことについて、別に資料3として書いてみました。もう少しボリュームを少なくしてもいいかなとも思っているんですけども、公民館というところがどういうところで、特に5つの施設の違い、特徴を出しながら、それから連携の事例として、こういうよう

なことを少し述べて、さらには、そういうところから見えてきた課題ですとか、または求めることというのを簡単に施設ごとにこんな形でまとめてみたらどうかということ、(5)を具体的に書いてみたらどんな感じかなということを書いてみたところ、これが資料3になります。

その後、2ですけれども、横断・連携というのに、何かパターンというか、様々な形がありました。助成金を受けるとか、講師をお願いするとか、何か様々なパターンがあったので、まずはちょっとそこを整理していく。横断・連携と言っていくけれども、何が横断・連携と捉えていくのか、そこをまずは整理していくということが必要かなと思って、2というのを設定してみました。

その上でなんですけれども、ある意味、1の(1)から(5)の施設で述べたものを串刺しするような形で、3番の横断・連携をめぐる課題ですとか、そして4番に、横断・連携というのを今後これから展開していくための視点、提案、課題を踏まえての視点とか提案、そういうようなことが書いていったらいいかなという感じで、この筋立てを作ってみたということになります。

そんな形で提案させていただいて、あとは皆さん方から忌憚なく御意見いただきたいと思うんですが。中身も含めながら、こういうことだよってということも肉づけしていただいてもいいですし、さらにこんな項目があってもいいんじゃないかみたいなこともあってもいいかなと思いますけれども、忌憚なく御意見いただければいいなと思っております。

いかがでしょうか。

笹生委員、お願いいたします。

笹生委員 まずは何より、このような前提を整えていただいて、ありがとうございます。すばらしいなと思えました。

一つ提案ですが、今回の大筋に異論はありませんが、付け加えとして、横断・連携をしたことによる成果の例みたいな。どこかに含まれることだと思うんですけど、例えば、私が担当した体育館ですと、しょうがいを持った人への理解が進んだというお話がありましたし。そういった形で、この5つの施設を聞いてきて、なるほど、横断・連携をしてきてよかったねという話もたくさんあったと思いますので、そちらも抽出してみたいかなはいかがでしょうか。

生島議長 横断・連携を行ったことでの成果。

笹生委員 ワーディングはちょっと、どうでしょうか。

生島議長 それによってもたらされた広がりみたいなことでしょうか。

はい、ありがとうございます。一つ、今、御提案をいただきました。

ほかにはいかがでしょうか。どうぞ、これからいろいろ、組み合わせたりとか、今の笹生委員の話もそうだと思うんですけども。なので、忌憚なく言っていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

皆さんがここに盛り込みたいことがどこかにはまるか、まさに今の、はまらない箇所があるんだしたら、何か別立てで作ってもいいんじゃないか、そういう視点でもいいかなと思うんですけども。

矢野委員、先にお願いたします。

矢野委員 ちょっとまとまらなくて申し訳ないんですけど。前回、公民館の職員の方が、連携は手段であって、目的ではないとおっしゃっていました。提案書の「はじめに」で書かれているのも、そういうことだと思います。もちろん、これは生涯学習振興・推進計画にもそのように書かれていて、目的か、手段かといっ

たら、手段だというふうになるんですけど。

また、ちょっと視点を変えると、連携の過程そのものがすごく大切なんじゃないかと思いますね。それは仕事をしていたときもそうですし、個人的にいろいろな研究会を、いろんな関係機関の人と行っていましたが、どういう過程で出会うかということによって、またそこから新しい提案が出てきたり、新しい世界というのも出てくるのかなと。その信頼関係の置き方というか、連携の在り方そのものも大事なのかなというふうに思います。

生島議長 ありがとうございます。団体とどういふふうにつながっていったり、また、そこからどういふふう連絡、調整していったりとかして、一つのものを作っていくかという、そのプロセスということですよ。

矢野委員 そうですね。

生島議長 はい。なので、その過程を少し描けるような部分というのが必要じゃないかというような御意見だったと思います。
ありがとうございます。では、もうお一方、手が挙がっていた中野委員。

中野委員 本当に、具体的にまとめていただいて、やりやすいなと思います。私も、やっぱり具体例というのをきちっと確認したほうがいいかなというふうには思っていました。

その具体例として、各社会教育施設からいろんな連携のお話をいただいている中で、図書館と公民館は、他の指定管理団体とはちょっと違うところがあったなと思っています。一番違うなと思うのは、ボランティアの方の活躍というのは、明らかに違っていたかなと。その中でも、公民館の方がおっしゃっていたように、ボランティアという言葉を使うのが適切かどうかということをおっしゃっていましたよね。要するに、共に学んでいるんだというような。ボランティアの方にとっても学びの場になる、生涯学習そのもので。そういうのは公民館と図書館にあったなと思ひました。

この間、入ってきた7月20日号の市報でも、「YAスタッフ活躍中」というのが載っていたんですけども、ボランティアを募集して、こういう活躍をされてますという紹介なんですけれど、これも明らかに、ボランティアとしてやっているんだというんじゃないかと、お互いの学びの場になっているというのが、本当によく分かる例で。そういうことをもう既にやられているという、私にとっては再確認といいますか、既にこんなことやられているんだという、ちょっと驚きといいますか、すばらしい活動をされているんだなというふうに感じました。講師であるとか他団体との連携のほかにも、そういう市民との連携というのが、市民の学びの場になっているんじゃないかなというふうに思ひました。

こういった具体的なことを考えながら、私自身も、私が地域でやっているのはボランティアなんですけど、地域の方と他の施設との連携をして学びを広げるといふのをやっています、今月4日には、ある大学の大学院生の授業に参加したり、大学生に来ていただいて地域で作品を作ったり、来月は社会教育施設の方と連携して、ちょっと大きなイベントをやったり。そういう連携で、地域でも具体的に学びが広がっているというか、自分で実証になるかなという感じですけど。

連携が全て学びに有効だと言っているわけじゃなくて、学びの一つの手段だなと、さっきおっしゃったように。広がるための大きな手段にはなっているなというのを確認したというところですよ。

生島議長 ありがとうございます。本当に大事な視点であるので、必ず報告書のどこかに盛り込みたいと思うところですけど。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

では、砂押委員、お願いいたします。

砂押委員 かなり突飛な意見かもしれないので、それはおかしいよということであれば無視していただいて構わないんですけども。

特に連携が必要なものとして、頂いた提案書の「はじめに」にも、図書館や公民館、郷土文化館、市民芸小ホールなど、それぞれ機能を異にする施設の部署の連携を進めて、運営の質向上を図ること、より一層効果的に活用していくこと、という方向性が書いてあります。このことから考えると今回ヒアリングした5つの施設の皆さんは、ほかの施設が何をやっているかという情報はどうも持っていなかったようなので、是非この人たちに、今回のヒアリングで各施設はこういうことを言っていましたよとか、どういう成果が出ていますよという話もありましたので、内容を伝えるべきだと思います。連携というのは手段であり、目的ではありませんよということ、もちろんそのとおりなんですけれども、どういうことを今やっているのかということ、まずはこの5つの施設に情報を与えて、この5つの施設でちょっと議論するなり、ブレインストーミングするなりして、連携という視点で情報共有と意見交換みたいなことをしてもらって、さらに豊かな生涯学習の機会創出のためにはどうあるべきかということ、議論してもらってはどうかと思います。我々が報告書として、成果でこんなことがあったから、こういうふうにしたらどうですかと、我々が考えをまとめて、提言するよりも、実質的なものになるのではないかと思います。もちろん生涯学習課の方が入っていただいていると思いますし、各施設の方にまた御足労いただくのは大変なので、別の機会でもいいと思うんですが、我々がまとめた情報を基に少し議論してもらったりするということがあってもいいのかなと。そういうところから連携がスタートするのかな、そういうプロセスもあっていいのかなと感じました。

今までこういう社会教育委員の会の仕事の進め方、いわゆる提言、報告するという形、最終的にはそうなるでもいいと思うんですけど、各施設の皆さんが、ほかの施設がやっていることを知った時の受け止めというか、どういうふうに感じられるかなというのがちょっと見てみたい、聞いてみたいという気がしました。そこから何か新しい発見があり、別の報告なり提言なり、もしくはそこで何か生まれるということもあるのかなというふうに、ちょっと思ったということです。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。報告書を完成するプロセスの中で、単に私たちが単発的に聞くんじゃなくて、もう1回、施設間で何かこう、みんなで共有するような、そこからもみ合うような機会があってもいいんじゃないかという御意見だったかなと思います。ありがとうございます。

様々、意見をまずお出しただけだと思いますので。

栗畑委員、お願いいたします。

栗畑委員 私も今、砂押委員がお話しされた、5つの団体が一堂に会して話をする場があってもいいんじゃないかなというふうには思っています。ただ、3のくにたち市民総合体育館だけはちょっと、スポーツということではなかなか難しいところもあるかもしれませんが、ただ、施設であるとか、そういう意味で協力し合えることはあるかと思いますし。

ずっと思っていたんですけど、例えば、図書館にしても、公民館にしても、これ、どっちがやってもいいような企画じゃないのみたいなので、あるんですね。それってどう調整しているのかな。単に話し合っているんじゃないで、従来からやっているから、縄張意識と言ったら言葉は悪いですけど、自分たちはちょっと切り口を変えて、こういう形でということで独自にやっているような気がするんですけど、だったら、ちょっと連携がそこら辺であっていいんじゃないかなと。

例えば、小さなものではなくて年に一遍くらい、芸小ホールとか体育館を使うような、広い場所を使うようなイベントをすとか。それが、例えば、くにたち市民まつりとかの中での行事になってもいいと思いますし。単独で動いて、何か連絡会みたいなものが最低限あってもいいんじゃないかなと。で、もう少し絞り込むことによって、質を高めるのか、規模を大きくするのか、そういうことなんかも見込まれるんじゃないかなと思ったりもします。

ちょっと雑な、感想的な意見ですけど。

生島議長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。日野委員、お願いいたします。

日野委員 今、提言といいますか、もう本当に提言につながっていく御意見が出てきているのかなと、聞いてて思いました。我々、ヒアリングを聞いた中でも、それだけ考えが出てくるところから考えると、やはりこの施設の方々も交えてディスカッションをするというのはすごく必要なことかなって、お話を伺っていて思いました。

まとめていただいた中での、2番の横断・連携のパターン、3番の横断・連携を巡る課題、ここ、すごく私は大事だなと思うんですね。それが共有できる、共感できる部分が各館あるかなと思いますし、また、他の施設のやり方から参考にできる部分というのも出てきますので、そういったところを我々も交えながら、ざっくばらんに話ができると、4番の提案も、より充実したものになるのかなという印象を持っております。

栗畑委員 すみません。もう一つよろしいですか。私はスポーツなんですけれども、結局、土日とかはもうボールを追いかけて、へとへとになっちゃうわけですね。よくて新聞を読んだりとか、多少スポーツのレベルアップのために本を読んだり、テレビ番組で収集したりということで、ああ、いいなと思っても、なかなか公民館とか図書館の企画しているものに参加する時間がない。でも、これってもしかしたら、本当に難しいところなんですけれども、やはりどこかではスポーツばかりになってるみたいなものですから、やりたいなと思いつながら、なかなか時間的にはバッティングしてしまう。

でも、学びの場を多く提供するというよりも、そういうこともあるんだと、まず興味を持ってもらうためのアナウンスとして、我々スポーツの世界では、異競技、例えばサッカーと野球の人たちが、お互いのスポーツを楽しんでみようとかっていう企画もしたりすることがあるんですね。そういうような、文化とスポーツでもないですけども、スポーツばかりでもいいんですけど、逆に、メンタル面のトレーニングも必要ですから、そこに役立つようなこともあるんじゃないかなと。

ちょっと漠然とした言い方で申し訳ないですけど、何かそういう連携したような、我々市民が、皆さん、一生懸命、提案、企画してくれているんですけど、市民も、市報とかいろんなもので見ているんですけど、見ててもやっぱり時間がない。でも、ちょっと「おっ」と思うような企画というか、背中を押す、そ

のためにはもしかしたら、例えば、スポーツ団体なり体育協会もありますけれども、そういうところに公民館から、今度スポーツに関係するような催しがあるからどうですかみたいなアナウンスがあるとか。何かそういうことで、我々スポーツマンがまた別な、もしかしたら夜とか平日とか、そういうのをちょっとやってみようかとか。マルチ人間ならやれるんでしょうけど、私も本当に、土日はボールを追いかけて、それで終わっちゃうもんですから。

ただ、現場の意見として、提供はいろいろしてくれるんですけど、やる身は一つですから、時間も限られますよね。そこら辺、本当に場の提供ということであるならば、いろんないい企画をしているんですけど、なかなか参加しにくいなというところはあるのかなと、一市民の感想としてはあります。

生島議長 ありがとうございます。でも、今の御意見というのは、職員の方々からも出ていたところですよ。一緒にやりたいのもあるけれども、目先の自分たちの仕事でもういっぱいというふうなこともあって。だから、市民側もそうですし、職員側のほうでもやっぱり言われていたことかなと思いついておりました。ありがとうございます。

一通り、今、皆さん方からお声を聞いたんですけども。どうでしょう、副議長、ぜひ。今の一通りの議論を聞きながら。

倉持副議長 すみません。考えがまだまとまっていないんですけども。

この、意見のまとめなのか、提案書なのか、議論のまとめなのか、誰に、何を目的に出すのかというのを、今、ちょっと伺いながら考えていて。連携・横断することによって生涯学習が充実する、学習機会が充実するから、それを促進するためにはこういうことをしてくださいみたいな提言なり、意見なのか。そうだとすると、かなりその提言や意見のことを、これから議論しなくちゃいけないとも思うんですけども。

一方で、伺った5つの施設は、施設ごとの特性というのは非常に大きいと思うので、単純に横、縦に区分けできるようなものでもない。私は若干、パターン化は不安を感じるというか、あんまりパターン化し過ぎてしまうと、特性とかが分かりづらくなっちゃうかなというふうには思っているんですね。

改めて、横断と連携という言葉が出てくるんですけど、生涯学習や社会教育の視点から見た、連携することの特徴や意義というのが、さっき矢野委員がおっしゃったみたいに、連携のプロセスそのものに学習があったり、あるいは研修的要素があったり、新しい可能性を開いていくような部分があったり、あるいはそこで、それ自体が学びだったりというようなことは、議長が書いてくださった「行政だけでは提供し得る学習機会に限りがある」という、行政の観点に立つと、連携と違って割と、平たく言うと資源的な部分に限りがあるから、連携することによって何とかしようみたいな要素がちょっとあったりすると思うんですけども、そういう……。すみません。何ていう表現。湾曲的表現？ 浮かばない。何ていうんだろう。資源が足りないから連携によって補完しようという考え方ではなくて、もうちょっと積極的な意義なり、成果なりというのがあるということが分かったというのはあるんじゃないかなと。

でも、それをさらに広げようと思うと、資源の乏しさ、割と人的資源の乏しさが話題に、どの施設でもなったと思うんですけど、それが逆にできてしまっていて。ここで出てくる「限りある」ということと矛盾するような状況も出てくるというところを、私たちはどういうふうにここで位置づけて、提言するのかなというところによって、この意見なり、提言なりの性質が変わってくるかなと、ちょっと雑駁ですけども、思っています。

報告書で、どこまでその具体例を載せるかというの、具体例があるからこ

そ、とっても連携のいろいろな、試行錯誤が分かった、工夫が分かった。それぞれの施設の特徴も分かる。けれども、それを全部書くとすごいボリュームになるので、それをどういうふうに位置づけるかということもちょっと考えなければいけないなと思ったし、連携といったとき、市民との連携という話と、団体や組織との連携という話を、混ぜ込んでやっていいのか、少しそこも整理しながらやったほうがいいのかということも、伺いながら思いましたし。

何となく、聞き取ったことの概要を1番で確認しつつ、それを基に少し、まさに横断的に読み取れる、生涯学習の視点から見た連携の意義とか、成果ということ共通項として整理しつつ、それを阻害する壁という意味で課題を幾つかまとめつつ、じゃあ、その壁を乗り越えるためにどうあるべきかというところが、提案なのか、提言なのか、意見なのかというような感じで整理していくということなのかなと思って。

そうすると、先ほど皆さんがおっしゃっていた、施設間の職員さん同士にお互いに知ってもらおうというのを、ここでやるのか、それこそが横断というか、異なる分野とか種類を越えて、そういう場を持つことを提案するというような形に持っていかというような考え方もあるかなと思って。運営母体も、テーマも、利用者も違うけれども、だからこそ、そこを横断することによって共通して見えてくるものがあったり、ヒントがあったりするんじゃないかというふうに持っていかやり方もあるかなと、ちょっと伺いながら思いました。

すみません。うまくまとまってないんですけど。

生島議長 ありがとうございます。今まで皆さんが出してくださったことを酌み取っていただきながら、まとめて御意見をいただいたわけですけど。

どうでしょう、今の御意見を受けて。

栗畑委員、お願いいたします。

栗畑委員 このヒアリングした5つの施設、1から3はくにたち文化・スポーツ振興財団が指定管理者として、これはもう市が政策的につくって、委託している施設なわけです。4と5は直営ですよ。今まで5館聞いた中で、それぞれの施設は、自分たちなりに一生懸命模索して、いろんな連携とかして、いろんな催しとか、市民に対していろんな場を提供しているということは分かったと思うんですね。だから、そうすると、今、倉持副議長が言ったように、連携のパターンを具体的にいっぱい羅列してもしようがないと言うとおかしいんですけど、むしろこの5つが国立市においても重要な施設ですから、この5つが連携しているのかどうかということが、一つ大きなポイントになっているんじゃないかなと思います。それが結局、大きくグループを分けると、直営と指定管理、私は指定管理って言ってますけど、現実的にもう文化・スポーツ財団というのは、理事長さんは副市長さんがやっているわけだし、職員も市からOBさんが行ったり、ですから実質的には準直営に近いと、私は思ってますけどね。であれば、そこは、この5つがしっかりともっと連携すれば、市民に対していろんな学びの機会とか提案ができるんじゃないかなと思っていますところ。

生島議長 ありがとうございます。その辺りの話もあるから、きっと同じ場を設けてみればみたいな、もしくは場を設けるという提案をしてみればということもあるのかなと思って、お聞きしてたんですが。

実際には多分やられているけれども、何というか、当たり前過ぎるから今回のヒアリングの中では出てこなかったという可能性も、もしかするとあるのかなと思って。こちらからの聞き方が特徴的な連携というふうに聞いているために、特徴的じゃなくて当たり前だから、ここではあえて言わないというこ

とも、もしかしたらあったのかなとも思いますけれども。なので、具体例としてはもしかしたら上がってこないかもしれないけど、ただ、本当に市内の互いの、まずは5施設のつながりというのにも必要だよねというのは、視点として必要になるだろうなということは、今、伺っていて思っていたところです。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

ちょっと今のお話を聞いていて、ポイントが2つぐらいあるかなと思っていてるんですけども。

1つは、私のほうで書いた2番ですね、横断・連携のパターンというところで。パターンという言い方もちょっと、私も何かしっくりこないなと思っていてところではあるんですけども。今、副議長から御提案いただいたような、生涯学習を推進していくときの、横断・連携の特徴とか意義ですよ。そこには、特に矢野委員がおっしゃってくださったことを酌んでいただきましたけれども、プロセスですとか、そういったところに、学習とか研修的な要素というのがある。それを何か浮かび上がらせられるような描き方というのを、ここでできればいいのかなと思っています。

そうしたときに、市民とのつながりもあり得るし、市民団体とのつながりもあるし、または機関とのつながりという形もありますので、そうした、5施設はやっぱり特徴がそれぞれ違うので、その違うものもちょっとうまく生かしながら書けるということがポイントかなということ。多分ニュアンスは一緒なのかなと思いつつ、ちょっと私のパターンという言葉がよくなかったかなとも思うんですが、この辺が、むしろ委員の皆さんから出していただいた、2で描かなければいけないことかなと思っておりました。

もう一つなんですけれども、砂押委員から発議された共通の場を、議論する場を設けて、その議論を踏まえて提案したほうがいいんじゃないかということ。でも、そこまでいけるのかということ、倉持副議長からは、むしろそういう場を持つことというのは提案の中に入れたほうが現実的なんじゃないかということがありましたけれども。

いかがでしょうか。少し現実的なスケジュールということも含めながら話をしていくということと、本当にそういうことができたらいんじゃないだろうけれども、やることで、どれぐらい議論が成立するのか、むしろ提案しながら、繰り返してできるようとか、もう既にやられていたりするのかという感じもするんですけども。その辺も含めて、今の場を持つということについて御意見を聞ければいいなと思うんですけど、皆さん方、いかがでしょうか。

栗畑委員 ちょっとその前に。何回目だったか忘れちゃったけれども、何かこの施設の連絡会みたいなのが上部であるような話がありましたよね。それがどんな位置づけで、どういう人たちの集まりなのか、誰か説明できますかということです。

文化・スポーツ財団は定期的に評価する会議をやっているということは知っているんですけども、それはあくまでも自分たちの中で、財団ですから。それが、じゃあ、公民館と図書館と財団で、何かそういうような連絡会みたいな、またこういうことをやろうよみたいなものがあるのかどうか。ちょっとそこだけはもやもやと、いつもしてたんですけど。

生島議長 事務局にお伺いしてもよろしいでしょうか。

事務局 まず、財団なんですけれども、頻度は覚えてないんですが、財団の3館でスタッフ会議といって、館長と主査クラスが定期的に集まる会議を開いているとともに、その3館プラス生涯学習課を含めた定期的な打合せというのは、3か

月に1回開催をしております。

もう一つおっしゃっていた連絡会なんですけれど、それは図書館と公民館、郷土文化館、あと生涯学習課も状況によっては入らせていただいて、それはもともと地域資料連絡会とあって、各館で持っている地域資料を、どうやって情報共有して、また市民に還元していくために活用していけるのかということをお話し合う場として、過去に地域資料連絡会として行っていました。

そこである程度一定の方向性が見えたので、地域資料連絡会としては一旦解散をして、ただ、今度、連携事業を模索していくための会議体として、メンバーとしては同じなんですけれども、図書館、公民館、郷土文化館、生涯学習課というところで、年に2回、3回ぐらい開いていたんですけれども、コロナ禍ある中で、最近はあまり開催できていない状況にある。そういった会議がございます。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。財団3館は指定管理ということ、あと、館の特質性に合わせて、特に体育館とか芸小ホールというのは、比較的、貸し館ですとか、そちらのほうが多い、事業ももちろんありますけれど、芸小ホールは外から持ってくるという事業もかなり多いという意味では、内部のことをつなげていくという意味では、質的に考えて図書館、公民館、郷土文化館は連携した組織があって、動いてはいたんですけども、コロナの状況で止まっている状況もあると。そういうようなことがあるとのことでした。

栗畑委員、よろしいでしょうか。

栗畑委員 はい。

生島議長 ありがとうございます。

いかがでしょう。今の話合いの場ということも含めてなんですけれども。これからの議論の進め方の中でも、大きな位置づけになるか、するか、しないかということになるかと思うんですけれど。

日野委員、お願いいたします。

日野委員 やはり、先ほどの話に戻っちゃいますけど、パターンって、何か型にはめていくようなイメージの言葉かなと思うんですけど、そういうことではなくてということですよ。

まず、ここの中でのヒアリングの結果が、課題も含めてある程度俯瞰できる状態にしないと、来ていただいても、やっぱり話合いとしては難しいのかなと思います。スケジュール感というところで考えると、これをまとめていくのにはそれなりの時間がかかるかなというのが、ちょっと。それを作った上で話ができる、すごく我々もまた深まっていく、各館にも深まっていく部分って出てくるのかなと期待できるという思いはあるんですけれども、スケジュール的に難しいのかなというのは、思うところです。

生島議長 ありがとうございます。そういう意味では、提案の中に組み込んだらいいんじゃないかという御意見として。はい。

ほかにはいかがでしょうか。

笹生委員、いかがですか。

笹生委員 ちょっと難しいなって思っていました。

ただ、やっぱり日野委員と全く同じで、やはり突然来てもらって、その場で、

はい、しゃべってくださいというのでは意味が低いと思うので、こちらで検討すべき指針のようなものを提示するのが最低限の段階かなというのが一つ。

じゃあ、呼んできて議論してもらおうか、場を持ってはどうかという提案をするか、どっちかといったときには、冒頭で頭にあったのは後者、そういう形の提案のほうがいいかなと。その際にはやはり、各館の方も大変お忙しいとおっしゃっていたので、実際に集まるというよりは、まさに我々が何か連携リストみたいなものを作って、これをぜひ見ていただいて、活用してくださいというようにペーパーで出すみたいなものもありなのかなんてことをちょっと考えていましたが、意外と、連携が実際にもうやられている、スタッフ会議しているということになってくると、またちょっと話が変わってくるなってことで、今ちょっともやもやしてました。

すみません。ちょっと1回飛ばしで、お願いします。

生島議長 やっぱり、私たちがもう少し俯瞰して議論をする時間が必要であるので、なかなかちょっと、そこまでは厳しいんじゃないか、もしくはもう少しその俯瞰した議論をやってからじゃないかということかなと思うんですが。

砂押委員、いかがですか。

砂押委員 先ほど事務局のほうから、定例とは言わないけれども、そこそこ会議をやっていたという話でした。全部ではないですね。3館ですが、やっていたということであれば、そこできちんと連携とかできているのであれば、連携が課題である、と書かれるようなことにはならないだろうから、そういう視点、問題意識での議論が、今までの会議でされていたのかどうか、というところがポイントではないかなと思います。

できれば、我々が今回ヒアリングをして聞いたことを、パターン化するかどうかは別として、いろんな課題であったり、こういうことをやっていますよと、これはいい活動だと我々が思ったような、例えばボランティアの取組であったり、そういったものをある程度まとめた上で、その連絡会が3か月に1回ぐらいあるというのであれば、そこで、ほかの施設の状況も含めて知ってもらって、そこで意見交換、それぞれの意見を聞いてみたいなというふうには思います。

もちろん最終的な報告として、そういうことをやりなさいという提言にするというのは、もちろんそれでいいと思うんですけど、私のこれまでの仕事のやり方、私のスピード感から言うと相当ゆっくりなので、課題だということが分かっているのであれば、とにかくそのテーマで議論をして進めていくべきかと思えます。この5施設の人たちも、ほかの取組を、こんなことやっているよというのを聞いたら、少し何か別の反応もあるのではないかなという気が僕はしているので、やっぱり少し聞いてみたいなという気はします。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

栗畑委員 私の感想ですけれども。郷土文化館と図書館と公民館が過去にやっていた地域資料連絡会、これはきっと、地域にこういう資料があるということで、連携の、情報の入り口になっているとは思うんですね。ただ、芸小ホール、郷土文化館、体育館がしている財団内部のスタッフ会議は、きっと連携ということじゃなくて通常の、財団の中のもっと別の、共通話題の連絡会みたいな、要は人がいっぱい入ってくる場所ですから、様々なこと、何か催しとか学びを与えるための、連携のための会議とは思ってないんですが、いかがですか。

事務局 おっしゃるとおりで、財団のメインの3館になりますので、定期的な情報共有だったり、定例的な会議というふうに捉えていただいて間違いのないと思います。

生島議長 栗畑委員、今の確認を得て。

栗畑委員 はい。思ったとおりでした。

生島議長 はい。ありがとうございます。
どうでしょう。ほかには。
矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 多分それにプラス、今の財団のは議会開催月か何かのときにされているんですよね。

事務局 財団3館での会議の頻度は、私も記憶にないんですが、もう少し多かったかなど。それにプラス、教育委員会が加わるものが3か月に1回になりますので、そうですね、議会が終わってから開催するというのが通例になっていますので。

矢野委員 そうですよ。たしか、どなたかがそういう、議会で出たことに関しての打合せ会というようなことをおっしゃっていたので、だから連携というよりも、栗畑委員がおっしゃるように、ちょっと違う趣旨のことなんだろうなと。

あと、地域資料連絡会というのはやっていたけれども、コロナ禍だから開催していないというのは、何かちょっと理由としてはあんまりすんなりいかないんですけど。国立市は結構、コロナ禍でもすごく活発にいろんな事業をやっているんで、多分それ以外の原因もあると思いますので、そこら辺はちょっとお聞きしたいところではありますけれども。前は講座をやったりとかもされてたと思います。

そういう意味では、砂押委員がおっしゃるように、もうちょっと提案をまとめた段階でお聞きしてみるといいのかもしれないんですけど、一方で時間の問題もあるし、ちょっと難しいところで、今すぐどうというのはなかなか言えないんですけど、いい御提案だとは思いますが。

生島議長 ありがとうございます。やっぱり橋渡しをどうしていくかということが今回ありますので、砂押委員からいただいた御提案というのもしかりかなという形もあるんですが、現実的なところで考えていくと、どこまでできるかなど。確かに、なかなかそううまく進まないところもあるかなど。

どうでしょう。先ほどからあった、やっぱりそうはいつでも我々が俯瞰的な結論をつくっていかない限りは、どのみち難しい、成り立たないんじゃないかということなので、少し柱立てを基にしながら議論を深めていって見て、それによってやれるか、やれないかとか、またはやり方としても、例えば皆さんに集まっていたくということも一つの御提案だと思うんですが、それがかなわないにしても中間段階でお互いに見ていただくとか、そういうやり方もあるかなど。それを見ていただきながら、ちょっと御意見いただいて、それを踏まえて最終のまとめにしたりとか、そういう簡易的なやり方もあるかなど思いましたので、まずは議論を進めてみるという形でやってみたらいかかと思うんですが、どうでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

生島議長 ありがとうございます。では、そのようにしていきたいと思います。

もう一つ、大筋で、「はじめに」、1、2、3、4とあって、先ほどから、話題になっている、2のところを少し、推進する特徴、意義、その辺りをきちんとプロセスとして描いていく、この辺りを、パターンという言葉じゃなくて、そういうふうにして書いていくということをやりにながら、そのほかは大体皆さん、こういう形でよさそうでしょうか。今の御意見を伺っていると、よさそうかなと思って、伺っていたんですけども。

では、こんなふうにして進めていきたいと思います。

今日の御意見の中でも、ここら辺、ちりばめられそうだなというようなこともありましたので、またそれは改めて、それぞれの議論のときに積み重ねていきたいと思います。

では、章構成につきましては、大体こういう形で進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それで、これからのスケジュールとか、やり方について御提案させていただきたいと思うんですけども。この項目とこれからのスケジュール、資料1を御覧いただければと思います。

まず、私の一つの提案は、具体的にいうと、来月は中間評価ですよね。推進計画の進捗状況について、御説明が少しありますので、いつものようにフルには時間が使えないんですけども、残りの時間で、それぞれの施設の、特に1の部分について、整理を、確認をしていきたいと思っております。

で、一つのパターンとして、ちょっとこういうふうに書いてみたんですけども。既に1、2、3につきましては、まとめに向けてメモを作っていたいであるので、これを基にまとめていくということでもいいかと思います。

図書館についてだけ、まだそういうものがないので、どうでしょう。司会をやっていたところ、少しポイントを出していただければいいかなと思います。図書館は、倉持副議長と栗畑委員。

栗畑委員 ただ、唯一資料がなかった回なんですよね。

生島議長 議事録とか。その辺をまとめていただければありがたいなと思います。

そのほか3つはこれを基にまとめて、それで全体像を出してみようということ、来月の回でやっていきたいと思います。そこでちょっと全体を調整したりとか。多分、その後、繰り返していくことになるかと思うんですけども。

で、2番の生涯学習を推進していくための横断・連携の特徴というのを、9月の回で議論していく。その順に、10月は3を、11月は4をというふうに、章ごとに議論していったらどうかと思っています。そこから少しずつまとめていって、残りの3回ぐらいで全体を精査していくという作業にしていったらどうかなと思っているところですけども、そんな進め方でいかがでしょうか。

よろしければ、そういう形で進めさせていただいて、それぞれ皆さん方も、御自分が担当された回が、きっと一番思いも強いでしょうし、ここをぜひというのもあると思いますし、そこを軸にしながらそれぞれの議論の準備をしてきていただくと、広がりも出やすいのかなと思いますので、そういった心積もりでいただければいいなと思います。

で、前の回で議論したものを次の回で確認しながら積み重ねていって、最終報告という形に持っていければいいかなというイメージでおります。

進め方については、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、そのようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。ちょっと図書館のほうだけ、お願いできればと思います。

さて、それ以外ではどうでしょうか。何かこの場で共有しておきたいこととか、もうちょっと全体像について固めておきたいことがありましたら、ここで御発言いただければと思うんですけれど。

よろしいですか。

では、今日はそういうことで、まずは形を作っておこうというところで、コロナもかなり増えているところでもありますので、先に進めさせていただきたいと思います。

では、次第3の事務局からの連絡事項ということで、お願いいたします。

事務局 次第3、事務局からの連絡事項ということで、お配りしている資料4を御覧ください。

東京都市町村社会教育委員連絡協議会では、国立市は第2ブロックに入っております。そちらの研修会の御案内が届いておりますので、こちらの御紹介をさせていただきます。

日にちでございますが、令和4年10月29日土曜日、午後2時から4時半まで、場所は立川市役所でございます。

テーマは「わがまちならではの学び」ということで、4番の内容のとおり、事例紹介と情報共有・意見交換、そしてまとめとなっております。

詳細についてはまた追って御連絡差し上げますが、ぜひ社会教育委員の皆様にご出席をお願いしたく、早めの周知をということで、立川市さんから届いているところでございます。

御案内は以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

立川市の会長が倉持副議長なんですけれど、ぜひ、何かアピールとかあれば。

倉持副議長 すみません。同じブロック内で。

今、事務局から御説明を詳しくいただきましたけれども、それこそ会議で何回かかけてテーマを決めたり、登壇者を決めたり、委員の中で打合せをして、せっかくなのでたくさんの方のブロック所属の社会教育委員さんたちに来ていただくということで。事例は立川市の事例を取り上げるんですけれども、前の教育長の小町さんという方が、学校と地域の連携、「学社一体」というふうな立川は言うんですけれども、立川市民科という、学校教育の中と生涯学習との両面からやるということで、今はもう教育長は替わったんですけれども、昨年度まで教育長がこの立川市民科という、協働の中での人材育成ということを、子供から大人まで取り組んでいるという、非常に特徴的な取組があるので、その事例と。

立川市は公民館ではなく、学習館という施設が6館あるんですけれども、大学と連携して様々な取組をしているので、それも特徴として挙げて、それを基に、それぞれの皆さんの地域でも特徴的な取組というのがあるだろうから、それをお互いに紹介し合って、社会教育事業としての魅力を探っていこうと、そういうようなことをやりたいなと思っております。

コロナの状況によってはオンラインを併用しようかという議論もしているんですけど、立川市はあまりネットワーク環境がよくないので、情報セキュリティが非常に高く、なかなか難しかったりするんですけど、でもそれも今、検討中なので、何らかの形で多くの皆さんに参加いただけたらいいなと思っています。

ぜひ御予定を空けておいていただければ、幸いです。

生島議長 ありがとうございます。

砂押委員 101会議室って、何人？ そんなたくさん入れるんですか。

倉持副議長 たくさん入れるんですよ。市役所のぶち抜きの部屋を取っているので、たくさん来ても大丈夫です。

生島議長 何かグループワークとかもあるんですか。分かれて。

倉持副議長 そうですね。混合のグループをちょっと、いろいろなブロックの委員さんに入っていて、いろいろな市の情報をお互い交換できたらいいなと思っています。

生島議長 だそうですので、皆さん、先のことなので、予定をぜひお願いできればと思います。

ほかにはいかがでしょうか。事務局のほうから。

事務局 次回定例会の日程と場所について、御案内いたします。

次回でございますが、8月23日火曜日、場所が変わりまして、以前、第4回で使わせていただいた北庁舎の第7会議室で開催いたしますので、場所をお間違えのないように、よろしく願いいたします。

議長のほうから御説明あったように、今回は、生涯学習振興・推進計画の進捗状況について、事務局からの報告も入れさせていただければと思います。中間評価も、前回の資料ですと一緒にするというふうになっていたのですが、まずは単年度の評価を出していただいて、そういったものも少し含めて、中間評価については、改めて別の時期に報告したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

ちょっと確認なんですけれども、次回の会議はここではないということで、北庁舎のほうですよ。

笹生委員 物すごく雨が降った。

生島議長 そうそう。大雨で出られなくなっちゃったとき。なので、裏側のほうの棟で集まっていただけだと思います。それから、駐車券がある方はお出しく下さいということです。

よろしいでしょうか。何か御質問等、ありますでしょうか。

では、コロナもかなり広がっていて心配なところなんですけれども、暑さもありますし、皆さんもどうぞ御注意ください。

今日はこれもちまして会議を終わりたいと思います。お疲れさまでした。

— 了 —